



- 郷土課にビデオ視聴コーナーができました！
- 県立長崎図書館所蔵の20世紀初頭の資料の紹介
- 郷土資料紹介
- 図書館紹介
- 平成14年度行事予定



郷土課にビデオ視聴コーナーができました！

6月1日、4階の郷土課研究室にビデオデッキを1台設置し、本館の所蔵する郷土関係のビデオ資料を視聴できるようになりました。どうぞご利用ください。

※ 本館の所蔵する郷土関係以外のビデオを見ることはできません。

※ ビデオの館外貸出はできません。



視聴できる主なビデオ資料は下記のとおりです。

1	[日本] 映像の20世紀《長崎県》
2	壱岐神楽《長崎県芦辺町住吉神社》
3	異国伝来手作りの味《独特の風味まろやかさわやか》
4	映像で見る長崎街道《長崎街道シンポジウム映像資料》
5	新しい異国・長崎
6	長崎県の名工《次代へ伝える職人の技》
7	長崎の匠たち（長崎県の伝統的工芸品）
8	幕末の職業写真師（上野彦馬）
9	風流のまつり長崎くんち
10	トーマスグラバー物語《近代日本の黎明をもたらしたスコットランド人》
11	我が心に刻まれし乙女たちをーエリザベス・ラッセル女史の生涯（活水学院）
12	長崎市被爆50周年記念事業の記録《概要編》

この他にも多数所蔵しています。

視聴方法は、他の郷土資料と同様、閲覧票に記入して、カウンターで請求するだけです。

ビデオも操作が簡単なものを使用していますので、どなたでも簡単にご利用いただけます。

これからも、本県の郷土研究をされる内外の研究者や利用者の方に、有効なビデオ資料を提供できるよう、ビデオ（郷土史料に限りますが）の所蔵を増やしていこうと思いますので、積極的なご利用をお願いします。

県立長崎図書館所蔵の20世紀初頭の資料の紹介 (大型図書)

県立長崎図書館所蔵の20世紀初頭の資料（一部19世紀末の資料を含む・郷土資料は除く）の紹介をしたいと思います。

今回は、明治11年から大正15年までの「大型図書」についてご紹介しています。

「大型図書」は、美術・芸術書や写真集、地図などが多く、当時の社会情勢や生活文化について、視覚的にとらえることができます。

本館の所蔵する昔の貴重な資料を利用者の皆様にご活用いただければと思います。

書名	著者名	出版社	出版年	備考
大日本貨幣精図		紙幣局	明治11年	奈良時代から、明治までの貨幣を図解で紹介
万国財政参照表		主税局統計課	明治19年	明治中期の世界各国の財政比較
日本社会風俗図説	勝山繁太郎	美術着色会	明治25年	明治の人々の風俗習慣について
大日本帝国土性略図		農商務省地質調査所	明治36年	明治30年頃の全国の地質の状態を記した地図
先史考古図譜	大野延太郎	嵩山房	明治37年	先史の遺跡や、土器・石器などを図解で紹介
戦地写真帖	国木田哲夫	美門商会	明治37年	日露戦争の戦地の状況を撮影
日本写真帖	田山宗堯	ともえ商会	明治38年	明治時代の日本各地の名所・旧跡の写真
世界六大強国国勢比較		内務省地方局	大正2年	6カ国の人口、財政、軍事力などの国勢比較
大正之帝国		至誠社	大正4年	大正時代の日本の国勢を記した一冊
欧州戦争写真帖		文部省普通学務局	大正5年	第一次世界大戦の戦地の状況を撮影
日本遺跡遺物図譜	和田千吉	遺跡遺物研究会	大正5年	太古の遺跡や出土品などを図解で紹介
大日本分県地図	安藤力之助	雄文館	大正5年	大正時代初期の道府県別の日本地図
世界大戦之記念	内田茂文	欧亜通信社	大正8年	開戦から、講和条約締結までの各国の状況
史蹟名勝天然記念物	瀬川光行	史蹟名勝天然記念物	大正9年	日本各地の名所・旧跡を紹介
大戦と世界経済状態	南波善之助	東洋経済新報社	大正9年	第一次大戦と、戦前・戦後の各国の経済状況
関東大震災写真帖	大塚八十八	日本連合通信社	大正12年	大正12年の関東大震災の被害状況を撮影
日本貨幣史	塚本豊次郎	財政経済学会	大正12年	貨幣の誕生から、大正に至るまでの貨幣の歴史
日本地図帖	小川琢治	成象堂	大正13年	大正13年作成の日本地図
万国博覧会参加五十年記念博覧会	山本末太郎	京都	大正13年	万国博覧会の会場・出展作品などの写真
東洋読史地図	箭内互	富山房	大正14年	春秋・戦国時代から、清代までの中国の歴史地図



◎世界六大強国国勢比較（大正2年）

明治末期の日・独・米・英・露・仏、6カ国の国勢を比較。国の面積や人口から、財政、軍事力、出生率・死亡率といったものまで比較している。

調査結果を数字だけで示すのではなく、旗の高さや、船の大きさなどに表して比較しているところが、ユニークでわかりやすい。

ちなみに、明治42年の日本の人口は、50,751千人で現在の半分以下。国費は534百万円で6カ国中最下位（米1,901百万円、英1,946百万円）

◎日本写真帖（明治38年）

明治時代の日本各地の名所・旧跡の写真を掲載。

長崎県については、下記のような場所の写真が掲載されている。

- ・長崎県庁（右上）
- ・伊良木の桜（右）
- ・端島（右下）
- ・諏訪神社・大祭（中央上・中央）
- ・諏訪公園（中央下）
- ・大徳寺の景（左・左下）
- ・長崎市街（左上）

「僅に万一里に満たす而かも人口十七萬に上り開港以来既に三百有餘年なり市内各町の状態多様なれとも其最も賑なるは江戸町、本下町、築町、東濱町、西濱町、今鍛冶屋町、石灰町、本籠町、船大工町及廣馬場等なり」



ほかに、長崎市海岸、長崎税関、佐世保鎮守府、佐世保市街、島原港、島原・小浜温泉、諫早眼鏡橋など。

唐人屋敷へ唐人の踊りあり一見に行く 一切チンプンカン何とも分らず

— 長崎旅日記・長崎紀行(16)—

〈シッポク料理〉

今回から唐人屋敷・唐人習俗について、ご紹介することにします。まずは前回の長崎味紀行の延長でシッポク料理から。

もともと「シッポク」とは卓子（テーブルのこと）の唐音ではなく、唐人屋敷設立以前の市中雑居時代に広南・東京地方の方言が長崎で唐人言葉として一般化したものと『長崎名勝図絵』にあります。中国語の辞書を引くと卓子＝「zhuōzi」（チュォツ）とあって、「シッポク」とはだいぶ違います。少し整理しますと唐人の「卓子料理」と、その影響を受けて日本化した「卓袱（卓子）料理」があり、どちらも「シッポク」といっていました。現在は唐人料理の系統を「中華料理」といい、長崎の郷土（料亭）料理は「卓子（シッポク）料理」に表記が統一されています。

大鉢・大皿に盛りつけた料理を各自が箸や匙で取り分けて食べる「シッポク料理」が、会話を弾ませ楽しい一時を演出することは現在も変わりません。明和四（1767）年、水戸から漂流民の受け取りにきた長久保赤水の『長崎行役日記』に、桜町の乙名田中菊左衛門宅で体験した「シッポク料理」の記述があります。

菊左衛門宅にて、夜食に唐様の卓子といふ饅せん部ぶを出す。給仕のものに指南せられて箸を取る。一案に六人づ、囲み座して食す。但飯碗ばかり面々にて、羹菜こうさいは寄合なり。

案のさしわたし二尺四五寸、酒食ひ初ると間もなく出る大鉢索麵そうめん、鯛、せん卵、木耳、葱、大鉢は替らず、どんぶりは皆かはる



唐人宴会卓子料理図

シッポクは円卓が相場とっていましたが、この場合正方形です。「指南せられて」とありますから、長久保赤水も最初は食べ方がわからなかったのでしょう。ただ索麵・鯛・せん卵・木耳・葱といった料理内容は、普通の日本料理と何ら変わりません。

水戸藩士長久保赤水是著名な地理学者。彼の『改正日本與地路程全図』は緯線と方角線を引いた最初の日本地図だそうです。水戸藩の蔵屋敷は長崎にないので、この時赤水ら漂流民引き取りの一行に対して、マニュアルどおり桜町がその宿泊等の世話を担当しました。赤水らは唐通事高尾嘉左衛門・兵右衛門父子の案内で、特別に唐人屋敷へ入りました。大門に入り、中門をこえて土神堂に一礼し、さらに階段を上って楼に入ると、座敷には毛氈が敷きつめてあります。唐人に茶を御馳走になったのですが、味わい「はなはだ淡薄」でした。薄煎茶だったのでしょうか。テーブルの上には饅頭、カステラカステラ・荔枝れいし・龍眼肉等の菓子・果物が30膳程盛ってありました。

当時長崎に入港していた唐船は2艘、船頭以下工

社（一般乗組員）まで140～150人が唐人屋敷に滞留していたということです。凡そ九千坪の敷地に唐人の家数は15。適正な居住人員は数百人、多くて千人程度でしょう。唐船は春船・夏船など時期をずらして入港しますから数千人が一度に住むことはなかったようです。

〈唐人屋敷の宴会〉

さて、『長崎名勝図絵』に唐人の宴会の様子が詳しく記されており、その概略をご紹介します。唐人屋敷の唐人は大の宴会好き。汪鵬の『袖海編』にも「上からふるまう宴会、下からよぶ宴会、通事との宴会、福酒をのむ宴会、春の宴会、遊女をもてなす宴会、蔵しらべや蔵出しのすんだ時の宴会、それにただの宴会もよく開かれる」とあります。

尊貴の賓客の大饗には菜羹凡そ廿四碗にして小菜数々あり、食一通り済んで後ち菓子・蜜漬・肴肉のたぐひ廿四鉢を出して菜碗に引き代へ夫より金銀の盃を出して酒宴をなす、其次の恭敬には十六碗又十碗なり、菓子・肴もこれに准し陶杯を用ふ

賓客の格によって料理・菓子の数や用意する盃も変わっていました。どのような食材かといえば、豚・鶏・家鴨・山羊・羊・鹿肉のほか、鱈・鯖や煎海鼠といった俵物も挙げられています。珍しいものとして燕巢。その調理法は「煮へ湯に浸して羽毛・ちり等を除き、糸筋のごとく細かに裂き鶏の煮汁を以て和らげ椎茸或は筍等を加へてこれを用ゆ、鶏を細く裂て取合せ、または氷砂糖にて煮用ゆ」とあって、清代から高級料理の代表として名高い「燕巢」ですが、一度実際に食べてみたいものです。

鳥類・魚・野菜などの食材を調和するのに、豚の煮出し（スープ）を使うことは「我国の鯉節を用いるがごとし」。調理の基本は現在も変わっていません。

卓子に並べられた山海の珍味の数々、酒が入って卓子料理の宴会は続きますが、酒席でのエピソードは後ほど触れるとして、唐人習俗に進みましょう。

〈唐人踊り〉

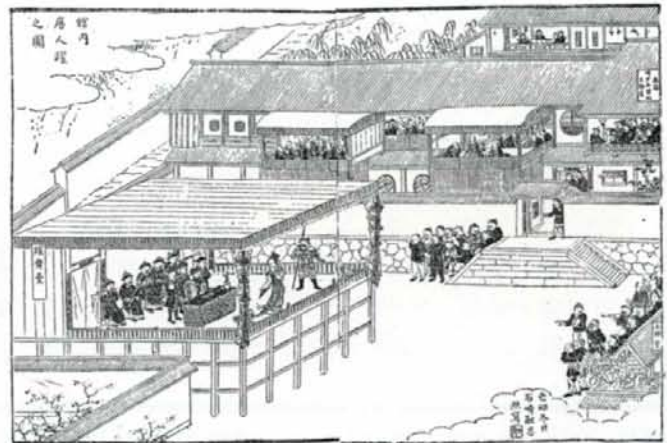
春二月二日は唐人屋敷の土神様の祭礼。その前後二・三日の間、土神堂の前に高大なる舞台を設けて色々と飾りたて「唐人踊り」を催します。奉行所の役人・地役人など日本人も招待され、居館の二階から見物しました。

在館の唐人其事に堪たる者種々の衣装・装束を着け錦繡を装ひ台上に出て歌舞をなす。其事体は水滸伝・三国志或は稗官小説の内を用ひ或は各々其郷曲の故事俗談の事を取りてこれを為す

楽器は笛・銅鑼・拍板・鑼叭・小鑼（俗にチャンチャンと称す）太鼓・堤琴・三弦にて拍子をなす、日本の雑劇・戯文に異なることなし、たゞ其扮装の異様以て奇とすべきのみ

これも『長崎名勝図絵』の一筋ですが、その著者饒田諭義や野口文龍らは何度も唐人踊りを見る機会があったのでしょうか、かなり理解していたものと思われる。ところが、初めて見た人は標題のごとく「一切チンブンカン何とも分からず」となります。出典は『日本九峯修行日記』、著者は修験者野田泉光院。文化十（1813）年二月二日に唐人屋敷へ行き、周囲の高みから垣越しにちょっと見ただけの感想です。「チンブンカン」は「珍糞漢」・「陳奮翰」と漢字をあて、儒者の漢語を冷やかしていったところからとか、外国人の言葉の口まねからとも言われていますが、それにしてもこの言葉は江戸時代からあったのですね。

（郷土課 本馬）



館内唐人躍（おどり）之図

図書館紹介

■平戸市立永田記念図書館

永田記念図書館は、「地域の子供達に図書に接する機会を与えたい」という、法学博士で元日本大学総長の永田菊四郎氏（本市深川町出身）の御意志により、昭和41年、氏の寄付によって建設されました。

30年以上地域の方々に親しまれてきましたが、この度中部地区の拠点として建設された複合施設「平戸市ふれあいセンター」のオープンに伴い、永田記念館も併設となりました。氏の胸像も移設され、今も変わらず優しい目で子供達を見守っています。

開館から3ヶ月が経ちましたが、来館者数、貸出冊数ともに今までの約2倍の利用が伸びています。利用者層にも変化が見られ、最近では学生や一般の方々の利用が増えています。初めて図書館に足を運んでくださる方々も多く、「これから利用しますね!」と声をかけてくださる



方もいて職員の方々のやる気に繋がっています。蔵書は約2万4千冊と決して多い数字ではありませんが、上手く活用して市民の方々のご要望に答えていけるように工夫していきたいと思っております。

当館では、児童に対する館内外の読書推進活動に力を入れています。館内での月6回の催し（読み語り、ビデオ等）をはじめ、学校や保育所への「ミニ図書館」の設置や「おはなしの出前」等を行っています。図書館から遠方の学校や保育所が多いため、今後も力を入れていきたいところです。また、平戸図書館と共同で「読書感想発表大会」も実施しており、毎年1000点近くの応募をいただいております。

今後は、ボランティアや読書グループの育成等、図書館をもっと身近なものに感じていただけるよう職員一同励んでいきたいと思っております。

平成14年度行事予定（7月～11月）

- 7月 古文書解読講習会〔初級〕
 (22日 本館、23日 佐世保市)
 古文書解読講習会〔中級〕
 (30・31日 本館)
- 8月 古文書解読講習会〔中級〕
 (1・2日 佐世保市)

- 9月 県立長崎図書館協議会（未定 長崎市）
 蔵書点検 (30～10/11日)
 郷土資料収集会議 (31日 本館)
- 10月 県図書館活動推進大会 (21日 諫早市)
- 11月 県読書グループ連絡協議会史跡見学
 (15日 長崎市)

★休館のお知らせ

県立長崎図書館は、9月30日（月）から10月11日（金）まで、蔵書点検等のため、休館いたします。ご利用の皆様には、期間中ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成14年度異動者紹介

転出：今後ともよろしくお願ひします。			転入：どうぞよろしくお願ひします。		
異動元課・職名	氏名	新所属・職名	課名・職名	氏名	転入元所属・職名
総務課 係長	金子 瑞根	財務課 係長	総務課 係長	鹿島 一雄	県教育センター 係長
資料課 係長	古川 功二	全国高総体推進室 係長	資料課 係長	馬場 俊一	対馬教育事務所 係長
郷土課 主査	山崎 義久	対馬教育事務所 係長	郷土課 係長	竹中 望	学芸文化課 係長

編集・発行 長崎県立長崎図書館 長崎市立山1丁目1番51号/印刷 (株)昭和堂 長崎市栄町6-23昭和堂ビル
 ISSN 1344-5235 ホームページアドレス www.lib.pref.nagasaki.jp

R100 再生紙を使用しております